

ジェンダー多様性からみる性別記入欄の 検討： ジェンダー統計の観点から

内閣府男女共同参画局

「ジェンダー統計の観点からの性別欄検討ワーキング・グループ」

2022年7月15日

白波瀬 佐和子（東京大学）

ジェンダー統計

『公的統計の整備に関する基本的な計画』（第Ⅲ期公的統計基本計画）（2020年3月6日閣議決定）（https://www.soumu.go.jp/main_content/000536467.pdf）

「また、男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計（ジェンダー統計）については、国際連合統計部が「ジェンダー統計作成マニュアル」において、各種統計の作成過程でジェンダーに関する視点を取り込むことの重要性を指摘している。国内においても、「第4次男女共同参画基本計画」（平成27年12月25日閣議決定）、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（平成28年12月22日SDGs推進本部決定。以下「SDGs実施指針」という。）において、ジェンダー統計の充実の観点から性別データの把握等に努めることが求められている。これらの施策上のニーズを踏まえ、可能な限り性別ごとのデータを把握し、年齢別・都道府県別にも把握・分析に資する統計の作成・提供を推進する。」（p.5）

注）下線は報告者による。

第5次男女共同参画基本計画

(令和2年12月25日閣議決定)

IV 推進体制の整備・強化

2 男女共同参画の視点を取り込んだ政策の企画立案及び実施等の推進

(2) 具体的な取組

③ 男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計(ジェンダー統計)の充実の観点から、各種統計の整備状況を調査し、公表する。また、ジェンダー統計における多様な性への配慮について、現状を把握し、課題を検討する。業務統計を含む各種調査の実施に当たり、可能な限り男女別データを把握し、年齢別・都道府県別にも把握・分析できるように努める。また、男女共同参画に関する重要な統計情報は、国民に分かりやすい形で公開するとともに、統計法に基づく二次的利用を推進する。【全府省】

(https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/5th/pdf/suishin_taisei.pdf, p.125)

注) 下線は報告者による

ジェンダー統計とは？

(United Nations Department of Economics and Social Affairs: UNDESA

2016)

- ジェンダー統計とは、男女別の統計以上の意味をもちうる。
- データは、ジェンダーに関連した諸課題を反映した結果である。
- データは女性内や男性内の異質性、多様性を的確に反映する概念や定義づけに基づくものであるべきである。
- データ収集方法は既存のデータにすでに存在するジェンダーバイアスに加担しうるステレオタイプの、社会文化的要因を配慮して実施されるべきである。

source: *Integrating a Gender Perspective into Statistics*, p.1

(<https://unstats.un.org/unsd/demographic-social/Standards-and-Methods/files/Handbooks/gender/Integrating-a-Gender-Perspective-into-Statistics-E.pdf>)

UN Minimum set of gender indicator

(https://www.dosm.gov.my/v1/uploads/files/4_Portal%20Content/3_Methods%20%26%20Classifications/2_List%20of%20References/TheUnitedNationsMinimumSetofGenderIndicators.pdf)

1. 経済的構造：生産活動や資源へのアクセスからみる参画の程度
 - 平均値、労働参加率、失業率、パートタイム比、等
2. 教育
 - 進学率、卒業・修了割合、学歴分布、等
3. 健康と関連サービス
 - 再生産年齢(15-49歳)比、5歳未満児死亡率、肥満人口比、60歳時平均余命、等
4. 公共と意思決定
 - 女性の積極的登用制度(gender quota)導入、ジェンダー平等に向けた法的枠組み、等
5. 女性と女の子の人権
 - 法的規制の程度、家庭内暴力に対する法的規制、セクシャル・ハラスメント防止に向けた法的整備、法的結婚可能な最低年齢への法的整備、女性や女の子に対する差別撤廃のための法的整備

人口統計の実施にあたって、性別 (Sex), ジェンダー (Gender), 性的アイデンティティ/自認 (Sexual Identity), and 性的指向 (Sexual Orientation) の違いの配慮

General population surveyにあつての5つのポイント

1. 包摂性: 偏りなく調査対象が含まれているか。
2. 正確さ: 正確に定義された用語を用いて、ブレのない質問がな されているか。 され
3. 自主性: 個々人のアイデンティティや自主性を尊重しているか。
4. 的確さ: 質問が必要不可欠であることが明確に設定されているか。
5. プライバシー: 対象者の不利にならないよう、プライバシーや守秘義務が厳守されているか。

出典) National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine (March

ジェンダー統計の背後にあるEBPM (Evidence-Based Policymaking) 議論

- 社会におけるジェンダーによって異なる実態についての理解を深める
- ジェンダーの違いを考慮した分析・調査を推進する
- 現行の政策やプログラムを評価する
- 評価する基準を設定する際の最終的な目標は、ジェンダー平等であり、人権保障の実現である。
- ジェンダー統計は、ジェンダーに関わらず多様、かつ均等な機会が保障される状況を鑑み、現実に何が不十分であり、どこに問題があるかを明らかにする証拠/根拠となりうる。Evidence-Based Policymaking (EBPM) は、ジェンダー統計が求められる根拠となる背景でもある。

ジェンダーの多様性(LGBTQI+)の把握

- 既存のデータ収集にあたっての、性同一性、性自認、性別内の異質性を配慮した包括的、かつ正確な調査の実施が必要なのは、次のような目的をを実現するため。
 1. 研究課題の進化、発展
 2. 全体人口(母集団)の時間的変化(傾向)の正確な評価
 3. コミュニティーレベルのニーズの把握
 4. 質の高い社会サービスの提供
 5. 差別の特定化と指摘
 6. 財源を含む様々な資源の均等な配分
 7. LGBTQI+が直面する格差を縮小し、公正な社会の実現に向けた根拠に基づく解決策の形成

参考文献) "Collecting data about LGBTQI+ and other sexual and gender-diverse communities" (Center for American Progress, May 2022)

用語集

- Asexual
- Bisexual
- Cisgender
- Gay
- Gender
- Gender expression
- Gender identity
- Gender nonconforming
- Genderqueer
- Intersex

- Lesbian
- LGBTQI+
- Nonbinary
- Pansexual
- QUEER
- Same-gender-loving
- Sex
- Sex characteristics
- Sexual orientation
- Transgender
- Two-spirit

ジェンダー統計の観点からジェンダーの多様性を考える意味

- 何のための質問項目か、調査目的の見極める。
 - 調査目的を絞りすぎると、調査の汎用性と相反する。
- 複数の調査の間での比較可能性を考慮する。
 - 調査の目的を特定化しすぎると、調査間の比較が困難になる
- 一様でない性別に関する質問
 - 大まかなガイドラインを定める
 - 出生時の性別 (sex)、調査時点のジェンダー
- 尋ねる側のルール
 - 調査データを作る側の設計
 - 人口調査の枠組みでの該当者数が極めて少ない場合の配慮
 - 全体マクロの実態、傾向を正確に読み解くことができることが、統計作成の基礎。
 - 偽陽性・偽陰性のリスクをできるだけ最低限に抑える
- 社会全体のマクロな傾向を検討する場合、該当者が極めて少ないことへの配慮。全体の中の部分を見ることも重要であるが、部分(対象者)それ自身を対象に調査をすることも重要である。何を調査の目的とするかは、社会の根幹を規定する重要な柱である。
- 尋ねられる側の気持ち
 - 調査とは、調査する側と調査される側の合意に基づく、対等な契約関係である。
 - 調査する側の先入観や思い込みによる調査設計は回避すべき。質問項目を検討するにあたって、常に質問される当事者を想定することが重要。

多様性を考慮すること

- 多様性を考慮することは、少数派の存在を考慮すること
- 多様性とは、少数派承認からはじまる
- 統計にあって、対象とする母集団を正確に把握できるか。そのための的確な質問項目の設定は、極めて重要である。
- マクロな傾向の中に潜む、異質性を見出す。一方、マクロな傾向として顕在化することが、公的な政策の目標であり、そこが評価されるべきポイントの一つ。
- 全体の中での少数派の位置づけを、比較対象群をもって分析、検討することは重要である反面、少数派の実態を明らかにすることで、多数派の基層にあるバイアスの存在を明らかにできる。

性別記入欄の是非

- 性別記入欄を廃止することについて、ジェンダー統計の観点から慎重に議論、検討すべき。
- ジェンダー格差が依然大きい我が国においては特に、優先度の高い政策課題の一つがまさにジェンダー不平等の問題であり、早急な改善に向けた政策議論のための統計分析が極めて重要である。
- ジェンダーとはもともと相対的で、2値以上の多層的な概念である。たとえ、男女で代表される比較であっても、ジェンダー多様性が無視されているとは単純化できない。多様なジェンダー性は、男女といった2項カテゴリーと深くかかわりつつ、性自認、性的指向などを考慮したジェンダー変数操作化して統計処理していく。3値以上のカテゴリーをどう表現し、分析にあたってどう処理していくか。これらについて、継続的な検討と、グローバルな国際的動向の把握と情報共有をもって、ジェンダー分析研究を推進することが重要である。